令和７年度学生チャレンジプロジェクト

学生による空き空間活用を通じたプレイスメイキング

お問い合わせ：新2号館 3階 益尾研究室まで

現在の日本社会は人口減少社会に移行し、多くの地域社会の衰退が課題となっている。その典型的な課題として、空き家や空き店舗、空き地など、活用されていない空き空間の増加が挙げられる。しかし近年、このような空き空間を地域再生のきっかけとして活用する取り組みが全国で展開されており、そのような場所の価値を再生する手法は「プレイスメイキング」と呼ばれている。

PROJECT

① 瀬戸市岩屋堂公園における国際芸術祭と連携したインスタレーション展示への支援

本プロジェクトは愛知県瀬戸市の市街地から少し外れた場所にある国定公園岩屋堂内の空き店舗を活用した空き店舗再生プロジェクトである。岩屋堂は、自然豊かで夏には川遊び、秋には紅葉祭りなどが行われる自然豊かな場所である。しかし、イベント時には人が多く訪れるが平時には店舗が運営されず来園者も非常に少なく活気がない状態である。また、現在の公園内にはベンチや机といった休憩時に利用するものが少なく滞在時間が少ない傾向にある。そのため本プロジェクトは、休憩スペースおよび魅力的な空間創出による滞在時間の向上と空き店舗活用による岩屋堂公園の賑わい創出を目的とした社会実験である。
また、今年度は「あいち国際芸術祭2025」が瀬戸市を対象に開催された。本プロジェクトでは、岩屋堂公園内にアート展示を行う山本芽生さんのアート作成から設営までを連携して行い、岩屋堂公園のプレイスメイキングに貢献した。

OVERVIEW

国際芸術祭あいち2025

愛知県瀬戸市を舞台に、国際芸術祭「あいち2025」が開催された。瀬戸市のまちなか全体をアート会場に見立て、全30作品がまちなかに散らばっている。展示期間は2025年の9月13日～11月30日の期間である。本イベントを通して、瀬戸市の新たな魅力の発見や地域再生のきっかけに繋げるべくアートイベントと連携した活動を行った。

活動スケジュール

8月16日(土)・17日(日)・23日(土)・24日(日)・30日(土)・31日(日)の計6日間にわたりインスタレーションアートの作成支援を行い、9月7日(日)に岩屋堂公園への設営を実施した。

キービジュアル

EXPERIMENT

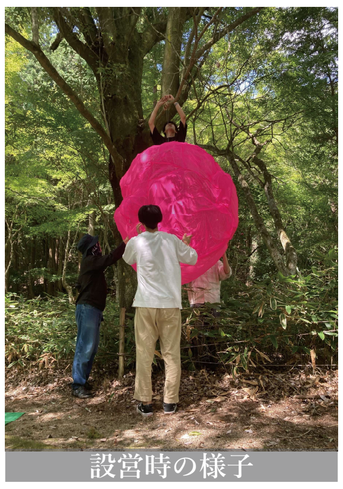
インスタレーションアートの制作・設置支援

　アーティストの山本芽生氏と連携し、アート作品の制作および展示を行った。今回制作した作品は、ワイヤー構造にピンク色のメッシュ布を張り込んだ、横幅約1m、奥行き約1m、高さ約2mの女性の頭部をモチーフとした大型の立体作品である。完成した作品は、会場内の樹木に固定する形で設置した。
設営にあたっては、脚立を使用して樹木にロープを括り付け、作品を吊り下げる方法を採用した。安全面に十分配慮しながら位置や高さを調整し、来場者の視線を引きつけると同時に、周囲の景観と一体化するよう配置を工夫した。また、来場者参加型の要素として、白帯に願い事を書き込み、それを木と木の間に張ったロープに結び付けられる仕組みを設けた。

まとめ

本取り組みは、これまで約４年間にわたり継続してきた地域活動の一環として実施したものであり、アートを通じた地域活性化の可能性を検証する試みであった。これまでの活動では、敷地内に存在する空き店舗を活用し、過去3年間にわたってカフェ運営を行うなど、日常的な滞在や交流を生み出す場づくりに取り組んできた。本プロジェクトは、そうした取り組みを発展させ、屋外空間へと活動の範囲を広げる新たな試みとして位置付けられる。
これらの取り組みを通して、アートが人々の行動や交流を促し、地域への関心や愛着を育む有効な手段であることが示された。以上のことから、前年度までに引き続き、本年度の活動においてもプレイスメイキングの実現に貢献する活動を行うことができた。

DMデザイン


設営時の様子

設営時の様子

展示の様子

展示の様子

展示の様子

PROJECT

② 瀬戸市末広商店街の国際芸術祭会場となる空き家活用支援

松千代館は末広町商店街で最も古くから存在する元旅館で瀬戸市の陶磁器文化の象徴である。約20年前から空き家となり放置されていたが、有志により設立された松千代館再生の会によって再生され、現在は1階をシェアスペース、2階を学生シェアハウスとして活用されている。また、2025年の国際芸術祭（あいち2025）の会場として選定され、国際芸術祭の会場として2025年9月13日（土）～ 11 月30日（日）の間、活用された。本プロジェクトでは、アート会場としての活用を支援し、芸術祭との連携を行なった。

EXPERIMENT

什器作成

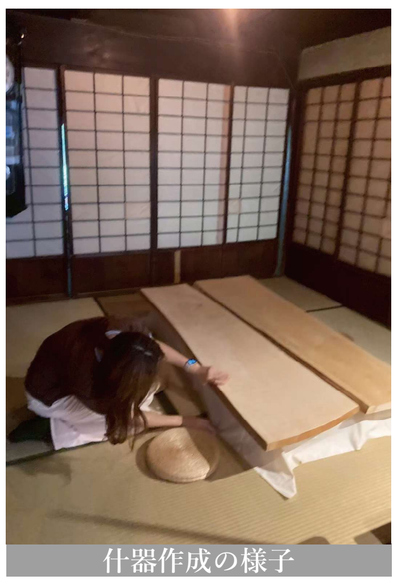
芸術祭が開催される9月13日に向け、8月から松千代館を彩る什器の作成及び、照明デザインの設計を行った。松千代館で展示されるアートはマンガ形式のものであったため、ゆったりとマンガを読める照明デザインや、テーブルのデザインを求められた。

元々松千代館は学生シェアハウスとして整備されており、共用部である展示空間の部分と、居住している学生のプライバシー空間を守れるよう、パーテーションの設置を行った。その他にも、展示に用いられるテーブルの設えを整えるために脚の部分を新しく作成した。また、マンガを読むための手元ライトを設置するため、静かで落ち着いた空間にあう照明を見繕い、コードが見えないよう工夫して設置した。

什器作成の様子

什器作成の様子

什器作成の様子


什器作成の様子

展示の様子

展示の様子

まとめ

これまで3年にわたり「松千代館」の再生および活用に継続して取り組んできた。その成果として、これまでの活動が評価され、芸術祭におけるアート会場の一つとして選定され、作品展示が実現した。芸術祭期間中には、アート作品の見学を目的に訪れた来場者が、松千代館そのものにも関心を示す場面が多く見られた。現在は学生シェアハウスとして活用されていることを説明すると、肯定的な声が多く寄せられた。これらの反応から、今後も本活動を継続して実施し、商店街および周辺地域の活性化に貢献していきたい。